

保育北九州

平成25年10月1日
発行 北九州市保育所連盟
〒805-0019 北九州市八幡東区
中央2丁目1-1
(レインボープラザ5F)
電話 (093)661-2153番
発行人 平 沢 茂
編集人 日 野 真 人

2013 173



(5)

もうすぐ うんどうかい

表紙	1
二人三脚	2~3
橘原淳信先生インタビュー	4~5
研修報告	6~7
雑感・編集後記	8

敬老の日に思う

視 点

八月二十九日の朝刊一面のトップに、生産年齢八千万人割れの大見出し、続いて「二人で一人を支える」という活字が胸にささった。「今年三月末時点での住民基本台帳に基づく日本人総人口が四年連続で減少、人口減と少子・高齢化傾向の鮮明化は今後の社会保障負担や労働力確保を巡る議論に影響」とある。

こんな記事を見る度に高齢者としては長生きしてごめんなさいと身の縮む思いをもつ。しかし、自分探し等と称して独立もせず老親に寄生し、百万人とも言われる引きこもり若者たちも生産人口としてカウントされているのは少々おかしいのでは？

八十歳過ぎても現役で税金を払い、年金暮してもボランティアで社会貢献している高齢者は少なくない。

新聞では生産人口を十五歳から六十四歳とし、六十五歳以上を支えられる層としているが、フリーターやニートはともかく、昨今は二十歳過ぎても在学中の者が多く、実質的な生産年齢は二十歳から六十四歳としてもよいのではないか。

北九州市の今年度人口は約九十八万人余とか、零歳から十九歳人口は約十八%、二十歳から六十四歳人口は約五十六%、六十五歳以上人口は約



好評連載の「二人三脚」、最終回は門司区支部長 西敏昭先生、同保育士会長 廣吉八重美先生に保育北九州編集委員がお話を伺いました。

き手・「保育北九州」編集委員

話し手・西光保育園 (以下・編集)

話し手・藤松保育園 園長 廣吉八重美先生 (以下・廣吉)

(編集) 宜しくお願います。はじめに保育の仕事に就かれたきっかけを教えてください。

(西) 僧侶として入寺したお寺が保育園をしていました。お寺のことしか分からなくて、はじめは戸惑いもありましたが、兄ちゃん先生として子ども達に本堂でお話をしたり、あそびだりました。園長になる資格を持っていなかったもので、戸畑の椎ノ木町にあった研修所で社会福祉主事の資格を取りました。お寺の仕事が忙しくて出席日数が足りずに一度は断念したのですが、2回目でクリアしました。その頃研修所におられた、現北九州市私

立保育園連盟会長橋原先生との出会いがあり、随分励まされました。研修所に通うあの坂道をバイクで登ったことが思い出されます。



西 敏昭 支部長



廣吉八重美 保育士会長

ファイルNo.7
門司支部

(廣吉) 高校時代は、ソフトボールに夢中で、クラブ活動に燃えていました。最後の試合が終わり、社会人チームより誘いがきて、就職もほぼ決まりかけていましたが、スポーツを仕事とすることは、年齢的な限界もあると心配した父が、保育士になつてはどうかと勧めてくれました。もともと絵を描いたり、物を作ったりすることが好きだったこともあり、父の勧めを受け入れ、保育士の道を選びました。又、高校の体験授業で出逢った保母さんが、子ども達に優しく素敵で憧れを持ちました。その先生が、当時鎮西保育園にいらつしやつた現保育士会副会長で花かご保育園園長の中村尋子先生です。父の勧めと中村先生との出会いが保育の道に入ったきっかけです。

(西) 子ども達の笑顔に会いました。いろいろあったのですね。

(編集) お二人とも素敵な「人との出会い」があったのです。

(西) では、この道に進んで良かったと思われた事を聞かせて下さい。



(廣吉) 保育園で一生懸命育ててきた子ども達で知らなかった保育ですが、「三つ子の魂百まで」の言葉通り保育は大切なことと分かりました。昭和五十九年に園舎を新築しました。お寺の中の保育園として、今でも入園式・卒園式は本堂で行っています。子ども達からいつも元気をもらっています。また、いろんな出会いがあって自分を成長させてもらったことがよかったことと言えます。

(廣吉) 保育園で一生懸命育ててきた子ども達で知らなかった保育ですが、「三つ子の魂百まで」の言葉通り保育は大切なことと分かりました。昭和五十九年に園舎を新築しました。お寺の中の保育園として、今でも入園式・卒園式は本堂で行っています。子ども達からいつも元気をもらっています。また、いろんな出会いがあって自分を成長させてもらったことがよかったことと言えます。

(西) 保育園で一生懸命育ててきた子ども達で知らなかった保育ですが、「三つ子の魂百まで」の言葉通り保育は大切なことと分かりました。昭和五十九年に園舎を新築しました。お寺の中の保育園として、今でも入園式・卒園式は本堂で行っています。子ども達からいつも元気をもらっています。また、いろんな出会いがあって自分を成長させてもらったことがよかったことと言えます。

二十六%である。
 とところで少々不満に思うのは、市民の意見を反映する各種審議会や委員会の委員選任要綱に、七十歳未満という年齢制限が設けられていることである。児童権利条約に子どもの意見表明権が記されているのは周知の通りであるが、戦後六十八年、戦争の悲惨・惨禍を身に刻み込み、子どもに唯一の夢を託し、働く親を支え、零歳児から就学前児に対する保育理論を構築し、戦後の復興・繁栄に努力してきた老人世代は支えられる人として発言の場は与えられず、戦後最大の保育制度改革と言われる新制度の方向を決める子ども・子育て会議に我等の代表である平沢会長が年齢制限のため選任されなかったのである。

元重慶市書記の薄熙来氏の裁判が開かれているのはご承知のことと思うが一説によると毛沢東復古運動のために失脚が図られたという報道から思い出したのは、かつて故西村法昭会長等と訪中した際、何れの革命委員会でも、毛首席の教えを守り、老・壮・青三者の意見、力を結集して国づくりに励むと熱く語られたことである。

かつて本市でも三層構造による福祉の見守りが提唱されたが、敬老と敬つて見守られるよりも、老年の蓄積された英知を活用して、壮年、青年、との三層による北九州の未来の設計図が描かれることを願うのである。

藤岡 規子



場の喜びや苦しみを共有できます。40歳で園長になり、悩んで体調を崩す事もありましたが、頑張ってきたことで子ども達が「先生」といつまでも気兼ねなく故郷に帰ってきてくれる。この道に進まなければこのような喜びを感じることは出来なかったと思います。

(編集) それではプライベートなことをお聞きします。休日はどうにお過ごしですか。

(西) 僧侶と園長をしていると、休日はあるようでないようなものです。ゆったり自分の時間を過ごしています。プラッとい物に行ったり、音楽が好きなのでライブを見に行ったりします。

(編集) どんなジャンルの音楽がお好きなのですか。

(西) 音楽の世界は共通なものがあるので、ロックやクラシック、何でも聴きます。バイクや車も好きです。

(廣吉) ショッピングです。買い物そのものよ

りインテリアやディスプレイなど周りの環境が気になります。「私ならこうするの」とか考えるのが好きです。それにペコちゃんグッズや和物の素敵なものには目がありません。ドライブにもよく行き、季節を感じるのが好きです。

(編集) 廣吉先生のペコちゃんに関する逸話はたくさんありますが、興味のある方は是非藤松保育園に行かれることをおすすめします。では、趣味やお好きなことを聞かせ下さい。

(西) これといったことがなくてね、音楽をしようとドラムを叩いたり、ベースギターをしたり、細かいものを造ることが好きでプラモデルやピンセットで組立てるおもちゃを作ったりといろいろと形から入っていくところがあります。コーヒーも好きですね。学生時代、京都の喫茶店によく行きました。

(廣吉) 好きなのは書道です。字を書いて精神統一をしています。目に留まった言葉や、心に響いた言葉をメモしておき、書いたります。その他に手芸も好きです。

(編集) 座右の銘やお好きな言葉はありますか。

(西) 仏教の言葉ですが、「和顔愛語(わけんあいご)」です。仏様のようににこやかな顔で誰にでも分け隔てなく接する……この言葉に、僧侶として園長としての思いを込めています。保育園にも『笑顔いっぱい』の文字が飾ってあります。

(廣吉) 「継続は力なり」です。一步一步諦めずに進むことや、何事にも責任をもって一生懸命にすることを大切にしています。

(編集) 保育園には「努力」という言葉を掲げていますが、保育士会長になった今も努力して、みなさんのお手伝いが出来たらいいなと思っています。

長から見た支部長はどのようなお人柄でしょうか。

(西) 心優しい方ですね。会長として細かいところによく気づいて動き、目には見えないところで大変な苦労があると思うけど、一生懸命やっています。影の支部長ですよ。(笑)

(廣吉) ダンディでふところが深い方で、きめ細やかな配慮をされます。まさに「和顔愛語」で、みんなをまとめ門司支部を引っ張って下さっています。僧侶と園長、支部長として忙しい日々ですが、その切り替えが素晴らしいと頭が切れると感心しています。

(西) お互いにつっぱしるところを補っているよね。(笑)

(編集) 名コンビですね。では最後に、支部長、保育士会長というお立場で門司支部にどのような思いをもたれているか聞かせ下さい。

(西) 今まで先輩方が培ってきた民間・事業団・公立が分け隔てなくやってきた歴史を大事にしていきたいと思っています。どんなに時代が変わっても視点はいつも子ども達に向け、門司支部らしく和気あいあいと皆で協力し合い、そしてそれを次に繋げていきたいと思っています。

(廣吉) 先輩の先生方が築いてこられたものに恥じないようにしたいです。門司支部は個性豊かな人が多く、思いやりがあつて団結心があり協力的です。又、勉強熱心な方が多いので、自分自身を成長させてくれます。

(編集) お二人の歩んできた歴史や人柄を知ることが出来、充実した対談となりました。お二人はこれからも門司支部を支え、二人三脚でご活躍されることと思います。ありがとうございます。

た。正直、わたしもすべての勤務形態を理解しているわけではありません。

(橘 原) あらゆる問題点について、慎重に議論を深めていかねばなりません。

(編集) 会議において意見が対立する場面などもあるので、しょうか？

(橘 原) 会議は基本的に各委員が持ち時間の中で自分の意見を表明していきます。持ち時間は各二分間程度と短いですが、激論を戦わずという形ではありません。しかし日本国の財政悪化を受けての規制緩和論に対しては、子どもたちの育ちに対しての視点を、どの程度持っているのでしょうか、と疑問と憤りを感じます。わたしは子どもの育ちを護るべき立場から意見を言わせて頂いております。

(編集) 保育者の代表として会議に臨んでおられる橘原先生の言葉を聞いて、とても嬉しく思いました。視点はいつも子どもたち——北九州の保育を表すこの言葉こ

そ、これからの保育が進んで行く道を照らすべきだと感じました。

(橘 原) 保育にかかる費用の多くの部分が税金——税金で賄われていきます。株式会社配当に税金が使われるのは絶対に避けねばなりません。保育に関わる費用は配当ではなく、子どもたちへ使われなくてはならないのです。

(編集) A そのことを理解して下さいる方ばかりではないのですかね？

(橘 原) 株式会社を活用することで待機児童が減るならば、配当へ充当してもかまわないのではないかと。これを否定する者は既得権益者だ、との言も聞こえてきます。

(編集) 論理のすり替えのように感じます。待機児童減少と子どもの育ちへの一層の支援は両立させねばならない課題のはずです。マスコミでもすでに横浜方式への警鐘が鳴らされています。

(橘 原) 保育所の整備を優先するだけでなく、子どもの育ち

の場とは如何にあるべきか、を考えていくことが必要ではないでしょうか。

(編集) 橘原先生、北九州において横浜方式のようなものが導入される可能性はあるのでしょうか？

(橘 原) 保育の場とは、子どもの育ちの場であります。われわれ保育者は全力でその環境を護らねばなりません。それは北九州市も同じ考えであると信じております。

(編集) われわれ保育者と行政の関係も大事になってきますね。

(橘 原) これまで北九州市においては、われわれ保育関係者と行政とが互いに手を取り合っており、子どもたちの育ちを護るべく頑張ってきました。この関係はこれまで以上に緊密な連携を図ることが求められると思っております。

(編集) あたらしい制度が施行されれば、北九州市における連盟の形態は変わっていくのでしょうか？

(橘 原) われわれの所属する北九

州市私立保育園連盟・北九州市保育所連盟、それに北九州市保育士会は単なる業界団体ではありません。子どもの育ちを護り支え続ける保育の専門家集団です。互いに力を合わせて子どもたちのために頑張っていかなければなりません。ですからこれからも一丸となってやっています。

(編集) 視点はいつも子どもたち

——肝に銘じていきます。(橘 原) これからも手を携えてやっていきましょう。

(編集一同) 本日はありがとうございました。

北九州市保育所連盟へご寄

門司区 門司保育所みどり園 園長 清永芳幸先生より、ご尊父様の初盆に伴い、保育事業発展のためご芳志を頂戴いたしましたので、ご報告申し上げますと共に心からご冥福をお祈り申し上げます。

研修報告

三 発 研 修

平成二十五年七月八日に行われた、この研修では「三歳以上児の発達と保育・遊び」というテーマで、和洋女子大学の太田光洋先生が子どもにとっての遊びや保育の大切さについて講義して下さいました。

『保育園とは、遊びを通しての教育を行う場だが、子どもにさせようという気持ちがないと生きていけない。子どもにとつて遊ぶことは生きることに必要なことで、自由で自発的に行われるものである。さらに、遊びを通して仲間とつながり、喜びや楽しさを感じる活動である。保育者の意図を子どもが「遊び」と感じられるためには、ひとつの活動に対して、様々な角度から考えたり、願いを意識しながら、子どもと共に時間を過ごし、意図を持って環境を準備し、姿を見ることが必要である。『遊び』は強制された活動ではなく、子どもが興味や関心を持って、主体的・自発的に物や人と関わり、活動を創造、展開していく働きがあるが、結果として子どものさまざまな力を育てることにつながる』ということをお話下さいました。これは講義の中の一部でしかありませんが、子ども一人ひとりが、楽しい体験を積み重ね、感情体験を豊かにし、世界を広げることが大切であるということが分かりました。また、その思いを実現する方法を考えたり、子どもの感じ取る力・想像力・意欲・考える力に働きかけたりして、子ども自身が作り出している環境を構築していくことを心がけなければならぬと感じました。保育士自身も大切な環境の一部であるので、日々保育の質の向上を目指して努力していこうと思えます。

ふたば保育園
中

第 九州保育 研

平成二十五年七月十一日〜十二日の二日間、鹿児島に於いて「新たな時代の保育実践〜すべての子どもにむけて〜」という主題で研究大会が開催され出席させて頂きました。

一日目は四名の先生方の実践発表を聞かせて頂きました。発表園の様々な取り組みを聞き、他県の先生方とグループ討議をする中で、子どもたちは集団の中で社会性や主体性を育む事が大切と学び、保育園は子ども一人ひとりの健やかな育ちを保証し、保育の質を向上させていかなければならないと思えました。

午後からは保育士会セミナーの講演会で宮里六郎先生による「子どものために」だけでなく「親も子ども」を支える保育というテーマのお話しを聞かせて頂きました。保育士として子どもと関わり、保護者に対しても登降園の際には明るく声掛けをし、一日の子ども様子を伝達することで保護者との信頼関係を作る事ができると改めて感じました。

二日目は榎木孝明氏の記念講演に参加しました。「アジアの中の日本」というテーマでアジアの旅の体験を中心にお話しを聞かせて頂きました。旅先で見かけた日本人の言動は現地の環境の悪さを見下していても恥ずかしいと感じたそうです。その事から私は、同じ地球上に生まれてきた人は皆、平等であるべきだと強く思ったと同時にたとえ、自分のおかれた環境が快適であったとしても幸せと言えないのか、改めて考えなければならぬと思



ました。研修を通して、今後保育士としてどうあるべきか、保護者から求められている事はなにかをしつかりと考え、日々の保育に取り組んでいきたいと思えます。貴重な研修に参加させて頂きありがとうございました。

神岳保育園

研 修

日時 平成二十五年八月十九日
場所 門司港ホテル

講師 神奈川県立保健福祉大学 顧問 山崎美貴子 先生
事例発表者

吉野保育所 所 長 白井 洋子 先生
つばさ保育園 主任保育士 三橋 栄子 先生
二百名を超える参加者で埋めつくされた門司港ホテルスパーツイオ。

前半は、二つの事例に基づいて、事例検討を行いました。相談者の語る事実を基に思いや気持ちに寄り添い、問題の背景を探ること、共感的サポートを行いながら、内容を掘り下げ整理して、相談者自身が主体的に問題を解決できるように動機づける力やその人に隠されている強みを引き出すことを学びました。

後半、山崎先生の講義では、子育ての時期は、強いストレスにさらされて、子育ての喜びや充実感よりも、子どもの要求が読みとれない、子どもにどう関わってよいか解らないことで、育児ストレスを高めたり、周りに相談する人もなく孤立している家族の現状を知りました。その育児家族の課題にどのような支援があるのか、情報が提供できるのか、地域の様々な機関と顔の見える関係を作り、連携したり協働したりする場所の情報提供ができるネットワークづくりが、今必要であることも強く感じました。

「人の幸せは、心と心のつながりから始まる」という言葉を胸に、地域と共にある保育園づくりに、子どもが育つ環境が少しでも良いものになるように

努めたいと思いき直すことのできた一日でした。

花園保育園

第 21 保育 研 修 研

「子どもの育ちを支える」激変する家族・社会・制度の中で〜をテーマに九月二日、福岡市に於いて大会が開催されました。午前は、北九州市福岡市・福岡県の三か所の保育園から「自我の芽生えとこみつき」「より豊かな育ちとなるように子どもへの言葉かけについて」「食から学ぶ」と題して実践報告があり、現場で抱える問題と向き合いながら、より質の高い保育を目指すために、保育士間や栄養士また、地域と連携をとりながらチームとして取り組んでいくことの大切さを感じました。

午後は、全国保育士会会長上村初美先生より基調報告がありました。「子ども・子育て会議」及び「子ども会議基準検討部会」の動向や全国保育士会の今後の展望についてお話しがありました。

記念講演では「子どもの未来のために」保育現場で取り組んでいくべきこと」という演題で、岡山女子大学の矢藤誠慈郎先生の講演があり、保育所保育指針を熟読し、指針に揚げられている「子どもの最善の利益を保障する生活の場」そこにあらゆる出来事を繋げていくことの大切さを学びました。また園内研修例をユーモアにお話ししてくださる学びの中や保育の中で楽しいと思う気持ちの人が育てるといふ事を学びました。今、制度改正が行われていますが、どのような制度になろうとも、一人ひとりの子どもを大切に保育を行って



門司保育所

各支部 名物

若松支部

若松名物と言えば、夏真っ盛りの時期に開催される「若松みなと祭り」です。

五平太ばやしを中心に花火やたいまつ行列が行われます。

中でも五平太ばやしは、企業・団体などのチームが、五平太船を押し出し、太鼓を叩き、街に繰り出します。

若松区の保育園の多くは、この祭りで催される「五平太ばやし」競演会に参加しています。



「五平太」の由来は、石炭を見つけた役人の名前で、石炭を運ぶ船「川ひらた」の船頭衆が、風待ち・潮待ち・弁当の洋服の折りに船縁を叩きはやしていたところから、木樽を叩く五平太ばやしが始まりました。

五平太ばやしは、老若男女誰もが笑顔で参加することのできる、どこか懐かしく親しみやすい郷土芸能です。

日本一の石炭積出港として栄えた時代を舞台として生まれた名作「花と龍」の作家であり、若松出身の火野葦平が五平太ばやしの作詞を手掛け、若松の人々に歌い継がれています。

競演会では、各園の心意気を表す色鮮やかなはつぴを着て、しゃれた頭飾りをきりりと締め、腰に下げる「下げ樽」をつけて舞台に立ちます。下げ樽は、自由に動き回ることでできる機動力抜群の太鼓です。子どもたちは、たくさんのお客からの拍手に少々照れながらも、大きな太鼓を叩くリーダーの合図の下、

「はあー わたしや若松
みなとの育ち

黒いダイヤに命を賭ける

わたしや 若松 五平太育ち」と唄いながら木樽を、本調子・伴奏のパートに分かれてリズムミカルに叩きます。

演奏披露後の「川ひらた」の前での写真撮影は、舞台での緊張感もとれ笑顔いっぱいのお記念に残るショットを撮ることができました。

若松みなと祭りにお越しの際は、子どもたちのかわいい太鼓演奏を、ぜひご覧になって下さい。

もうひとつの名物は、「保育まつり」です。

北九州市民のオアシス、グリーンパークの緑化祭に合わせて開催される保育まつりは、当日入場料が無料ということもあり、たくさんの方が気軽に参加して下さい。

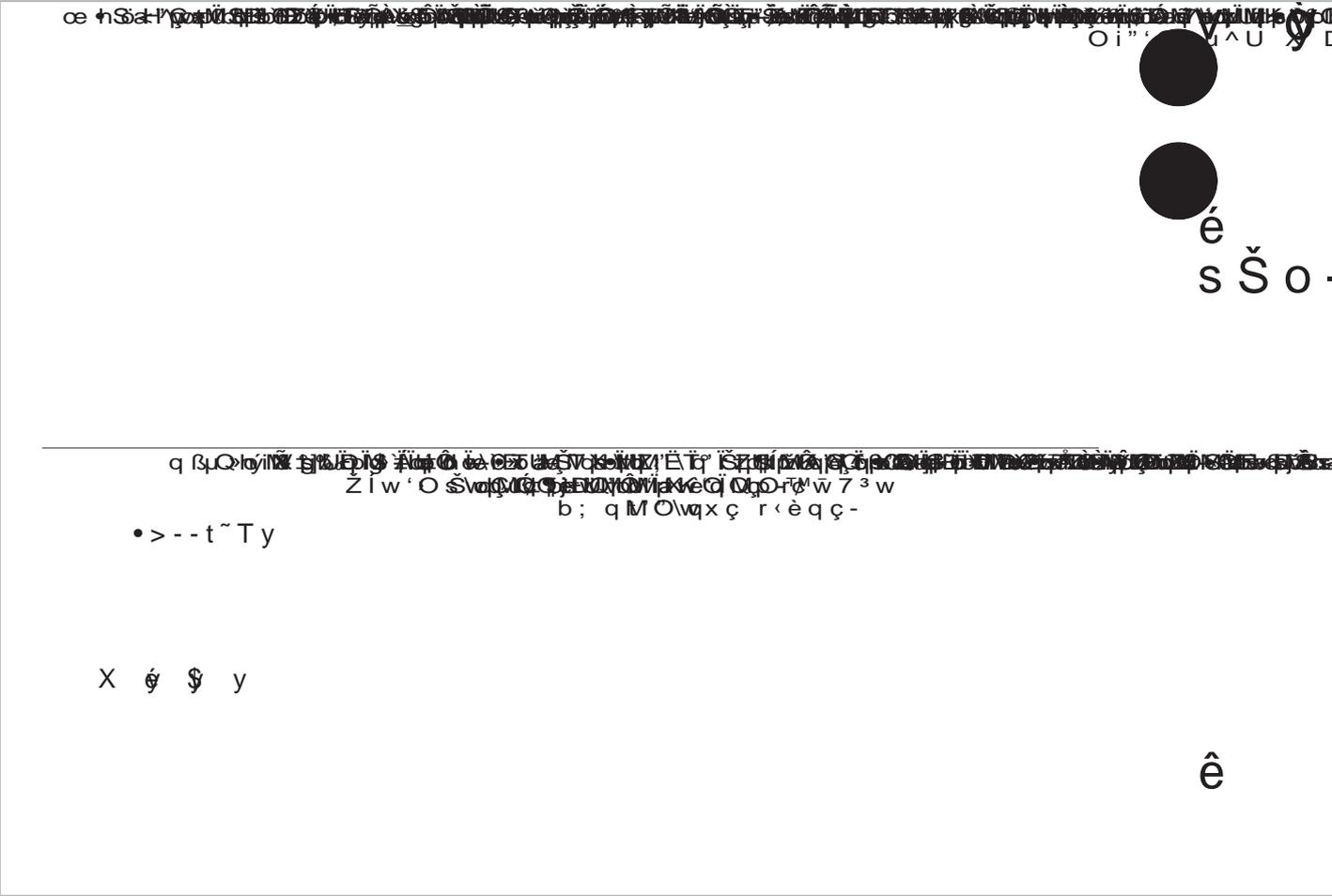
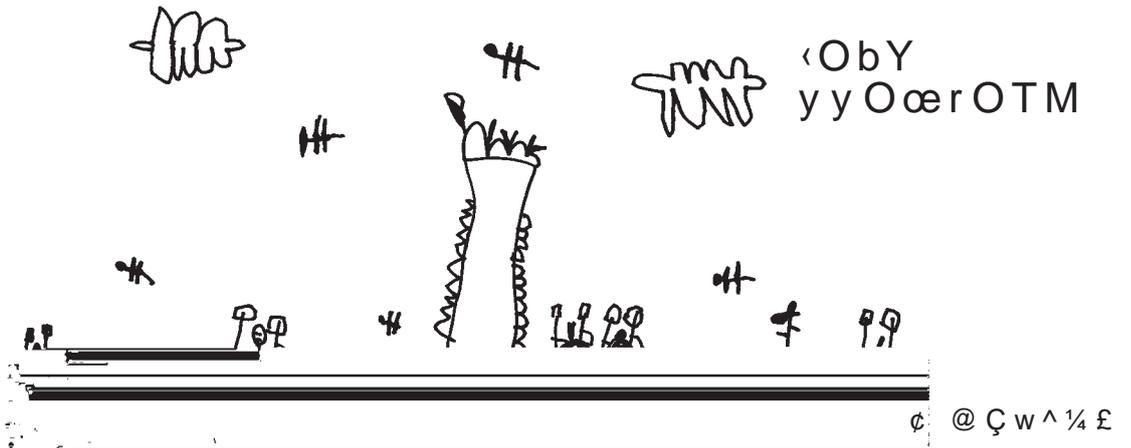
この機会に、保育所について少し

でも多くの方に知って頂くことができるように、大きく「保育まつり」と看板を揚げ、「作ってあそぼう」「折り紙」「一緒にあそぼう」のコーナーを設けます。

「作ってあそぼう」は、身近な材料を使い、手作りの玩具ができて、それを使って遊ぶことができるため大好評です。また、「一緒にあそぼう」は、透き通る青空の下、広々とした芝生広場で、今年度はパラバルーンを使つての遊びを予定しています。家庭では経験することのできない遊びを思う存分楽しんでいただきたいと思ひます。

秋のひと時、バラの甘い香りが漂い、色とりどりの花が満開を迎えるグリーンパークでの保育まつりに一度足を運んでみて下さい。





\$ B TM G • @i-q@ - •

œôz wSÉT'šMhÉCp⊗ìX-q@ X-wšM>K'hŠo-QoMhiMh@ì
 X-qxxüt'i wt?>~'Oqb"ÿpK"⊗ X-qxi w;QhMqMO>ËjT
 'xCd'•ht?UzxüwÖtÖloR"7>~bwiq6-Ý^doMhiMhwi{~h`
 hjxÔxw--wæpz r<hJw≠M•βQzf`o>Ëj>uÃ\$Tœ-Oq`oM"q≠
 O{\•U@ìX-pK"{f•t0`oz r<hj<xüw>Ëj•≠M>;Q'Oq`ot?
 >C`oM"{fw r<hJw≠MU-- wÖtÖloX"\qzf•U@ X-pK-OT{
 \OBQ"q@ìX-q@ Xzrj'UGÄpK"TsrxxtQsM\qt>nX{-- U
 r<hjt/"4Otxz r<hJw`>@ìV-Tm@ X-qUGÄswiq>nT^•
 hwi{~h`< r<hJw`>GÄtb"-- qs"hm{

@--zÝ-~\$BÖyÔyúy y